

〈特集「(連用修飾的) 複文」〉

イタリア語

西澤 藍

今回のアンケートの狙いは「動詞連続の諸タイプによる複文の形成のバリエーションを対照」するとのことなので、イタリア語において定形の動詞を接続詞で繋いだ文やジェルンディオや過去分詞といった動詞の不定形を用いた文など、できるだけ様々なタイプの文を提示するよう努めた（とはいえあらゆる可能性を網羅したものではないことは予めお断りしておく）。

なお、今回のアンケート回答にあたっては2名のイタリア語話者の協力を得た。2名とも大学で日本語を専攻する留学生である。時間の都合上、1名にはアンケートの日本語を執筆者が伊訳したものを訂正してもらい、場合によってはさらなる指摘をもらった（ここでは便宜上Aの話者としておく）。そしてもう1名には日本語の文を見て伊訳してもらうという形をとった（Bの話者とする）。どれがそれぞれの話者から得られた文かは伊文の後に括弧でAかBかで示してある。(31)と(32)に関しては諸事情によりBの回答のみとなっている。

伊文には簡単に語の意味や文法範疇などを記したが、動詞に関しては断りが無い限り直説法である。略号は、現=現在形、未=未来形、条=条件法、接=接続法、命=命令法、受=受動、1=1人称、2=2人称、3=3人称、単=単数、複=複数、接=接続詞、副=副詞、代=代名詞、定冠=定冠詞、不定冠=不定冠詞、部分冠=部分冠詞、前=前置詞、疑=疑問詞

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

a. Lui mangia sempre mentre legge il giornale. (A,B)

彼は 食べる (現3単) 副「いつも」 接「～する間」 読む (現3単) 定冠 新聞

b. Lui mangia sempre leggendo il giornale. (A,B)

彼は 食べる (現3単) 副「いつも」 読む (ジェルンディオ) 定冠 新聞

接続詞 *mentre* 「～している間」を用いた文と同時性を表すジェルンディオを用いた文の両方が可能である。意味に大きな違いはないが、接続詞を用いた形のほうがよく用いられるとのことだった。

(2) (私は) 昨日は10時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。

a. Ieri sono tornato a casa alle 10, ho guardato un po' la TV

昨日 帰る (近過去1単) 家に 10時に 見る (近過去1単) 少し 定冠 テレビ

e poi sono andato a letto. (A)

接「そして」 接「それから」 行く (近過去1単) ベッドに

b. Ieri dopo essere tornato a casa alle 10, ho guardato un po' la TV

昨日 接「～した後」 帰る (不定詞複合) 家に 10時に 見る (G(過去1単) 少し 定冠 テレビ
e poi sono andato a letto. (A)

接「そして」 接「それから」 行く (G(過去1単) ベットに

c. Ieri sono tornato a casa alle 10 e dopo aver guardato un po' di tv

昨日 帰る (G(過去1単) 家に 10時に 接「そして」 接「～した後」 見る (不定詞複合) 少し 前「～の」 テレビ
mi sono addormentato. (B)

眠りにつく (G(過去1単)

(2a)は「～して、～して、それから～した」と、3つの文をすべて等位接続詞でつないでいる。その際、英語と同様に最後のもの以外は省略される。(2b)と(2c)はどちらも dopo+不定詞複合形を用いて「～した後...」を表現したもので、どこにこの形が用いられているかの違いはあるものの、基本的には同じ構造である。

(3) (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

a. Ieri sono caduto dalle scale e mi sono fatto male. (A,B)

昨日 転ぶ (G(過去1単) 階段から 接「そして」 怪我をする (G(過去1単)

b. Ieri cadendo dalle scale mi sono fatto male. (A,B)

昨日 転ぶ (ジェルンディオ) 階段から 怪我をする (G(過去1単)

(3a)は原因・結果を等位接続詞で繋いだもの。(3b)はジェルンディオが用いられておりここでは原因・理由の用法である。

(4) 今日父は会社に行き、兄は大学に行った。

a. Anche oggi mio padre è andato in ufficio mentre mio fratello è andato

～も 今日 私の 父 行く (G(過去3単) オフィスに 接「その一方で」 私の 兄 (弟) 行く (G(過去3単)

all'università. (A)

大学に

b. Anche oggi mio papà è andato al lavoro e mio fratello in università. (B)

～も 今日 私の パパ 行く (G(過去3単) 仕事に 接「そして」 私の 兄 (弟) 大学に

(4a), (4b)は用いられている接続詞は異なるものの、基本の構造は同じである。(4b)の場合には andare 「行く」という同一の動詞の繰り返しを避けて二つ目は省略されている。

この場合にはジェルンディオなどを使用することはできない。

(5) (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた.

a. Oggi lui camminava con il cappello (in testa) .(A)

今日 彼は 歩く (半過去3単) 前「〜と」 定冠 帽子 頭に

b. Oggi lui camminava portando un cappello. (A,B)

今日 彼は 歩く (半過去3単) 持つ (ジェルンディオ) 不定冠 帽子

(5a)は「帽子をかぶって」というのを前置詞 con 「〜とともに」を使って表したもので、(5b)は様態を表すジェルンディオを用いたものであるが、どちらの場合にも「帽子をかぶって」という部分に特別に強調が置かれるようだ。またいずれも文脈がないと理解しづらいとの指摘も受けた。

(6) (私は) 休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

a. Nei giorni di vacanza, di solito leggo oppure guardo

前「〜において」+定冠 日 前「〜の」 休み たいいてい 読む (現1単) 接「または」 見る (現1単)

la TV. (A)

定冠 テレビ

b. Nei giorni di vacanza, di solito leggo e guardo

前「〜において」+定冠 日 前「〜の」 休み たいいてい 読む (現1単) 接「そして」 見る (現1単)

la TV. (B)

定冠 テレビ

c. I giorni di vacanza di solito li trascorro leggendo

定冠 日 前「〜の」 休み たいいてい 代「それらを」 過ごす (現1単) 読む (ジェルンディオ)

e guardando la TV. (B)

接「そして」 見る (ジェルンディオ) 定冠 テレビ

(6a), (6b)ともに等位接続詞を用いて二つの定形動詞を繋いでいる。(6c)はやや複雑な構造で、直接目的語をテーマとして文頭に置きたいいわゆる左方転位構文である。そしてどのように休みの日を過ごすかが様態としてジェルンディオで表されている。だが二つの不定形の動詞が、等位接続詞で繋がれている点は前2つと共通している。

(7) 時間がないから、急いで行こう。

a. Sbrighiamoci perché non abbiamo tempo. (A)

急ぐ (命1複) 接「なぜなら」 否定 持つ (現1複) 時間

b. Non c'è tempo, quindi sbrighiamoci e andiamo. (B)

否定 ある (現3単) 時間 接「それゆえ」 急ぐ (命1複) 接「そして」 行く (命1複)

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

a. Siccome ieri avevo mal di testa, sono andato a letto più presto

接「～なので」 昨日 持つ (半過去1単) 頭痛 行く (近過去1単) ベットに もっと 早く
del solito. (A)

いつもより

b. Ieri sono andato a dormire prima del solito perché avevo

昨日 行く (近過去1単) 前「～に」 眠る (不定詞) 前に いつもより 接「なぜなら」 持つ (半過去1単)
mal di testa. (B)

頭痛

c. Ieri avendo avuto mal di testa, sono andato a letto più presto del solito. (A,B)

昨日 持つ (ジェルンディオ複合) 頭痛 行く (近過去1単) ベットに もっと 早く いつもより

(8a), (8b)は接続詞の違いにより主節が先に来るか従属節が先に来るかが異なる以外には大きな違いは見られない。(8c)ではジェルンディオの複合形が用いられ、原因・理由を表すとともに、複合形であることによって主節の内容よりも時間的に前であることがはっきりと分かる。B の話者によると単純形のジェルンディオを用いることも可能。

(9) あの人は本を買いに行った。

Lui è andato a comprare dei libri. (A,B)

彼は 行く (近過去3単) 前「～に」 買う (不定詞) 部分冠 本

Andare 「行く」 + 前置詞 a + 不定詞で「～しに行く」。

(10) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

Ha aperto la finestra per (poter) guardare meglio fuori. (A,B)

開ける (近過去3単) 定冠 窓 前「～するために」 ～できる (不定詞) 見る (不定詞) よりよく 外

目的の部分 **perché** 「～するために」などの接続詞を用いて従属節として表すことも理論的には可能である。その場合、従属節中では動詞は接続法が用いられる。ただしこの例のように主節の主語と従属節の主語が同じ場合には普通用いられない。

(参考) Ho aperto la finestra perché lui potesse guardare meglio fuori.

開ける (近過去1単) 接「～するために」 彼 ～できる (条件過去3単)

私は彼が外を良く見られるように窓を開けた (=彼のために私が窓を開けた)。

(11) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

a. Quando è estate, qui piove spesso. (A)

接「～するとき」 ～である (現3単) 夏 ここで 雨が降る (現3単) よく

b. Qui quando arriva l'estate piove spesso. (B)

ここで 接「～するとき」 着く (現3単) 定冠 夏 雨が降る (現3単) よく

c. In estate qui piove spesso. (A)

前「～において」 夏 ここで 雨が降る (現3単) よく

(12) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

a. Quando ha aperto la finestra, è entrata dell'aria fredda. (A)

接「～するとき」 開ける (近過去3単) 定冠 窓 入る (近過去3単) 部分冠 空気 冷たい

b. Aperta la finestra, è entrato un vento gelido. (B)

開ける (過去分詞) 定冠 窓 入る (近過去3単) 不定冠 風 冷たい

c. Aprendo la finestra, è entrato un vento gelido. (B)

開ける (ジェルンディオ) 定冠 窓 入る (近過去3単) 不定冠 風 冷たい

(13) 坂を上ると、海が見えた。

a. Dopo aver fatto la salita, ho visto il mare. (A)

接「～した後」 する (不定詞複合) 定冠 坂を上ること 見る (近過去1単) 定冠 海

b. Percorsa la salita, si è visto il mare. (B)

通る (過去分詞) 定冠 坂を上ること 見る (受・近過去3単) 定冠 海

c. Percorrendo la salita, si è visto il mare. (B)

通る (ジェルンディオ) 定冠 坂を上ること 見る (受・近過去) 定冠 海

(12b)(13b)のように過去分詞を用いた場合と(12c)(13c)のようにジェルンディオを用いた場合では意味がやや異なる。前者では主節の動詞が表す出来事より前に動作が完了しており、「窓を開ける」→「風が吹き込む」というような動作の時間的な前後関係がある。それに対し後者ではまさに「窓を開ける」という動作が行われている瞬間に風が吹き込んできたという同時性が含有されている。

(14) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

Se domani pioverà, io non ci andrò. (A,B)

接「もし」 明日 雨が降る (未3単) 私は 否定 代「そこに」 行く (未1単)

実現可能性の高い条件文においては条件節、帰結節ともに直説法の時制が用いられる。その際

には様々な時制の組み合わせがあり得る。例えば条件節と帰結節が〈現在形+現在形〉, 〈現在形+未来形〉, 〈未来形+未来形〉の他, 文脈に応じて〈近過去+現在形〉, 〈近過去+未来〉, 〈近過去+近過去〉なども可能である。また現在形を使う場合と未来形を使う場合に関してだが, どちらの場合もこれから起こり得る未来の事柄についての仮定であり, 意味としては大きな差はない。(22)に関しても同様である。

ちなみに実現可能性の低い仮定あるいは非現実的な仮定に基づく条件文では一般に, 条件節で接続法半過去, 帰結節では条件法現在が用いられる。

(15) もっと早く起きればよかったなあ。

a. Sarebbe stato meglio se mi fossi alzato prima. (A,B)

～である(条過去3単) よりよく 接「もし」 起きる(接大過去1単) 早く

b. Se solo mi fossi svegliato prima. (B)

接「もし」 副「〜だけ」 目が覚める(接大過去1単) 前に

c. Svegliandomi prima sarebbe stato meglio. (B)

目が覚める(ジェルンディオ) 前に ～である(条過去3単) よりよく

(16) あんなところに行かなければよかった。

Sarebbe stato meglio se non ci fossi andato. (A,B)

～である(条過去3単) よりよく 接「もし」 否定 代「そこに」 行く(接大過去1単)

過去の事実に反する仮定に基づく条件文では条件節で接続法大過去, 帰結節で条件法過去となる。(15c)では条件節の部分にジェルンディオが用いられ, 仮定を表している。

なお, (15a)および(16)のどちらの場合も Sarebbe stato meglio se...の se の代わりに名詞節を導く che を置くことも可能である。イタリア語話者に確認したところ, che を用いた場合でも意味的に大きな差は感じられないとのことだった。

(17) 1に1を足せば, 2になる。

a. Uno più uno fa due. (A)

1 + 1 作る(現3単) 2

b. Aggiungendo 1 a 1, fa 2. (B)

加える(ジェルンディオ) 1 前「〜に」 1 作る(現3単) 2

c. Se aggiungo 1 a 1, fa 2. (B)

接「もし」 加える(現1単) 1 前「〜に」 1 作る(現3単) 2

d. Quando aggiungo 1 a 1, fa 2. (B)

接「〜するとき」 加える(現1単) 1 前「〜に」 1 作る(現3単) 2

(17c), (17d)ではこれらの文を答えてくれた話者によると、強調あるいは皮肉といったニュアンスが加わるとのことだった。1 + 1 = 2というのは一般的真理であるので、わざわざ「もし」という仮定条件を言うからには何か特別な理由が必要になってくるというのが理由だと思われる。

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

a. Quando arriva in stazione, mi chiami per favore. (B)

接「～するとき」 着く (現3単) 駅に 私を 呼ぶ (接現3単) お願いします

b. Una volta arrivato alla stazione, mi chiami. (A)

一度 着く (過去分詞単) 駅に 私を 呼ぶ (接現3単)

イタリア語には2人称に親称(tu)と敬称(Lei)があり、ここでは敬称が用いられている。敬称の場合は動詞は3人称単数に活用する。また命令の場合、独自の形態はなく、接続法現在3人称単数と同形になる。

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

a. Domenica andremmo al parco insieme. (A)

日曜日 行く (条現1複) 公園に 一緒に

b. Domenica vorrei che andassimo al parco insieme. (A)

日曜日 望む (条現1単) ～ということを 行く (接現1複) 公園に 一緒に

c. Domenica, vorrei andare tutti insieme al parco. (B)

日曜日 望む (条現1単) 行く (不定詞) みんな 一緒に 公園に

「日曜日になったら」という部分は条件としては扱われず、単に「日曜日には」という時を示す表現に置き換えられている。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

a. Se domani piove, sarà un bel problema. (B)

接「もし」 明日 雨が降る (現3単) ～である (未3単) 不定冠 美しい 問題

b. Come facciamo se domani piove? (A)

疑「どのように」 する (現1複) 接「もし」 明日 雨が降る (現3単)

(20a)は直訳に近く、(20b)はやや意識となっている。(20a)の bel(<bello)は原義は「美しい」だが、ここでは強調を示す語として「大変な」といった意味で使われている。(20b)は直訳すると「もし明日雨が降ったら(私たちは)どうしよう?(どうしようもない)」となり、反語的な意味に

なっている。そのことはイントネーションからも判断できる。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

a. Se viene da me, per favore mi telefoni prima. (A)

接「もし」 来る (現3単) ～(人)のところへ 私 お問い合わせ 私に 電話する (接現3単) 前に

b. Nel caso in cui venga da me, per favore mi

前「～において」+定冠 場合 関係代名詞 来る (接現3単) ～(人)のところに 私 お問い合わせ 私に

telefoni prima.(A,B)

電話する (接現3単) 前に

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

a. Quando il campanello suona, me lo dica. (A)

接「～するとき」 定冠 ベル 鳴る (現3単) 私に それを 言う (接現3単)

b. Quando la campana suonerà, fammelo sapere. (B)

接「～するとき」 定冠 鐘 鳴る (未3単) ～させる (命2単) +私に+それを 知る (不定詞)

c. (una volta) suonata, fammelo sapere. (B)

一度 鳴る (過去分詞) ～させる (命2単) +私に+それを 知る (不定詞)

d. Quando sarà suonata, fammelo sapere. (B)

接「～するとき」 鳴る (先立未来3単) ～させる (命2単) +私に+それを 知る (不定詞)

英語の when と同様、quando「～するとき」が用いられている。条件節内での動詞の時制については(14)を参照。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

Se il campanello suonasse, me lo dica. (A,B)

接「もし」 定冠 ベル 鳴る (接半過去3単) 私に それを 言う (接現3単)

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

a. Chi non lavora non dovrebbe mangiare. (A,B)

代「～する人」 否定 働く (現3単) 否定 ～するべきである (条現3単) 食べる (不定詞)

b. Chi non lavora, non mangia. (B)

代「～する人」 否定 働く (現3単) 否定 食べる (現3単)

(25) もう少しお金があったらなあ。

Se solo avessi più soldi! (A,B)

接「もし」 副「～だけ」 持つ (接半過去1単) もっと お金

条件文の条件節のみが明示され、帰結文は暗にほのめかされているのみである。日本語のいいさしの表現に近いと思われる。

(26) これも食べたら？

a. Vuoi provare anche questo? (A)

～したい (現2単) 試す (不定詞) ～も これ

b. Mangia / Prova anche questo! (A,B)

食べる (命2単) 試す (命2単) ～も これ

c. Perché non mangi anche questo? (B)

疑「なぜ」 否定 食べる (現2単) ～も これ

d. Se mangiassi anche questo? (B)

接「もし」 食べる (接半過去2単) ～も これ

(26c)は直訳すると「なぜ (君は) これも食べないのか？」だが、perché non ～で「～したらどう？」という意味になり、何かを勧めるときに使われる表現である。

いいさしという点では(26d)がもっともそれに近いが、実際には「文法的には正しく文脈によっては言えるかもしれないが、食べ物を勧める場面でこのような文は聞いたことがない」との指摘を受けた。

(27) やりたいなら (自分の) 好きなようににやれば？

a. Se facessi a modo tuo? (A,B)

接「もし」 する (接半過去2単) やり方で 君の

b. Se facessi come ti pare? (A)

接「もし」 する (接半過去2単) 接「～のように」 君に ～と思われる (現3単)

c. Se volessi farlo, perché non farlo a modo tuo? (B)

接「もし」 ～したい (接半過去2単) する (不定詞) +代「それを」 疑「なぜ」 否定 する (不定詞) +代「それを」

a modo tuo? (B)

やり方で 君の

d. Volendo farlo, perché non farlo a modo tuo? (B)

～したい (ジェルンディオ) する (不定詞) +代「それを」 疑「なぜ」 否定 する (不定詞) +代「それを」

a modo tuo? (B)

やり方で 君の

(27a)および(27b)は直訳すると、「もし君の好きなようにやったら？」というような意味になり(26d)と同様、いいさしという点では原文に近いがあまり自然な文ではないとのことだった。

(28) このコップは落としても割れない。

Questo bicchiere, anche se cade, non si rompe. (A,B)

この グラス 接「～したとしても」 落ちる(現3単) 否定 壊れる(現3単)

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

a. Questa mela, anche se era molto costosa, non è

この リンゴ 接「～に関わらず」 ～である(半過去3単) とても 高い 否定 ～である(現3単)

per niente dolce. (A)

全く 甘い

b. Questa mela, pur costando cara, non è

この リンゴ 接「～に関わらず」 費用がかかる(ジェルンディオ) 高い 否定 ～である(現3単)

per nulla buona. (B)

全く おいしい

(29b)で用いられているジェルンディオはpurなどを伴い、譲歩の意を示す。

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

a. Sono andato a casa sua ma non c'era. (A)

行く(丘過去1単) 家に 彼の 接「しかし」 否定 いる(半過去3単)

b. Ho provato ad andare a vedere a casa sua, ma lui non

試す(丘過去1単) 前a 行く(不定詞) 前「～に」 見る(不定詞) 家に 彼の 接「しかし」 彼は 否定

c'era. (B)

いる(半過去3単)

(31) あの人があるまで、私はここで待っています。

Finché non sarà arrivato, aspetterò qui. (B)

接「～するまで」 否定 着く(前未3単) 待つ(未3単) ここで

(32) あの人があるまでに、食事を作っておきますよ。

a. Prima che arivi, cucino. (B)

接「～する前に」 着く(接現3単) 料理する(現1単)

b. Entro il suo arrivo, finisco di cucinare. (B)

前「～以内に」 定冠 彼/彼女の 到着 ～し終える(現1単) 料理する(不定詞)

c. Finché sarà arrivato, cucinerò. (B)

接「～するまで」 着く(前未3単) 料理する(未1単)

d. Finché non sarà arrivato, cucinerò. (B)

接「～するまで」 否定 着く(前未3単) 料理する(未1単)

参考文献

Salvi, G., Vanelli, L. 2004. “*Nuova grammatica italiana*”, Bologna, il Mulino.

Renzi, L., Salvi, G., Cardinaletti, A. 1988. “*Grande Grammatica Italiana di Consultazione, vol.2*”, Bologna, il Mulino.